

今年度は新型コロナウイルスの発生により状況が一変し、世界中の人々がこれまで経験したことのない不自由な生活を余儀なくされました。

日本では、一時は感染者数が減少し事態は収束に向かうかに見えましたが、昨年後半から感染者数が劇的に増加し、先日、限定的ではありますが緊急事態宣言が発出されたところです。

そんな状況の中、学生の皆さんも先行きの見えない不自由な毎日をお過ごしのことと思います。オンライン授業というこれまでになかった授業形態、登校可能になっても検温やマスク、消毒の徹底、さらには周囲との会話も控えなければならないといった制約があり、ストレスを感じながら学生生活を過ごしている方も多いことでしょう。

私自身もコロナ禍で人と会うことすら思うようにできず非常に不自由さを感じてきました。ただ、その一方で自粛生活によって得られたことも少なからずありました。例えば、これまで時間がなくて中々読めなかった本を読むことができたり、家で過ごす時間が増え家族とも良くコミュニケーションをとれるようになったり、家事をするようになったり（ほんの少しですが・・・）。一つひとつは小さなことで、これまでもやろうと思えばできたことではありますが、私にとっては非常に大きな変化でした。

ところで、ごく少数だとは思いますが、世の中には「どうせ感染しないだろう」とか「仮に感染したとしても大したことはない」と言っている人がいるようです。自分が感染するだけなら自己責任の問題ということで済まされるのかもしれませんが。しかし皆さんご存知の通りウイルスは容易に人に感染し、場合によってはうつされた人が命を落とすことも十分あり得るのです。

ワクチンが開発されたことで少し明るい兆しが見えてきましたが、ウイルス自体が変異するなど収束まではまだまだ時間がかかりそうです。

そんな中で学生の皆さんには、できないことに目を向けるのではなく、こんな時だからこそできることにエネルギーを注いで自身の成長に向けて邁進していただきたいと思います。

本学といたしましても、感染予防対策を万全にとりながら、皆さんの学生生活を充実したものとできるよう全力で取り組んでまいります。

仙台青葉学院短期大学
学長 鈴木 一樹